



盛り付けや接客を役割分担

高齢者が高齢者宅へお弁当を届ける

取材当時は、関根さん（66歳）と鈴木さん（67歳）の二人がスタッフとして働いていた。お弁当を買いに来た高齢者の女性に、テキパキと袋詰めをし手渡す関根さん。間違えないようにと真剣な眼差しで、ゆっくりとボタンを押す姿が何とも微笑ましい。

厨房では、料理が得意な鈴木さんがご飯の盛り付けをしている。「料理は家庭の延長だから、作るのには苦にならない。自分の料理を美味しいって食べてもらえるのが嬉しい」と語る。

その光景を温かな眼差しで見守るリーダーの八重子さん。

「自分が高齢者の方たちとこうして働くとは想像もしてなかった。でも、お料理を教わることも多く、一緒に働くことでとても勉強になります」

オープン当初は、味が薄いなどお客様の厳しい



高齢者スタッフの作る人気メニュー「鶏もも揚げ煮」

埼玉県幸手市『元気スタンド・ぷライス』

利用者も提供者も高齢者
働くことが介護予防や生き甲斐づくりに!

時間と元気を持って余している高齢者たち。孤立した生活から集まれる場所、働くことで生き甲斐づくりができる場所の提供を目指すため、『NPO元気スタンド』を立ち上げた代表の小泉さんに、その活動と今後の展開についてお話を伺いました。



行き場のない高齢者たち

「高齢者は病院の待合室にいるもの」

元気スタンドを始める前の小泉さんは、高齢者の居場所について、ほんやりとこんな風に感じていたという。

しかし、大手スーパーで社員として働いていた小泉さんが目にした現実とはまったく違っていた。スーパーの休憩スペースに毎日顔を見せる常連客。何をしてもなしに、何時間もそこで時間を潰している。そんな光景を不思議に思い、声をかけてみると意外な答えが返ってきた。

「病院でも邪魔にされる」「家には自分の居場所がない」

それは小泉さんにとってあまりにもショックが大きかった。と同時に、このままじゃいけないという思いが強くなっていった。

そんな折、自宅の近くにあるこの幸手団地に買い物に来て偶然、団地内の商店街の空き店舗の利用者募集を知った。

オープンから6カ月は家賃無償。40歳という年齢を考えれば、今しかチャンスがないかも。小泉さんの脳裏には居場所を無くした高齢者たちの姿が浮かび上がった。そして、長年務めたスーパーを退職し、高齢者たちが集まれる場所づくりをス

押し付けじゃない介護予防

2007年暮れ。高齢者たちが自由に集える場所としてコミュニティ喫茶「元気スタンド・ぷリズム」をオープン。店内では、まだまだ自分は元気だと思っている高齢者へ、押し付けではない介護予防の情報を提供。国の財政難も考えれば、介護に陥らないよう食い止めることが大切だと考えてのこと。

当時、コミュニティ喫茶なるものは認知されていなかったが、徐々に団地内の高齢者たちが常連客となっていた。

「歌声喫茶や介護予防のヨガ、バイオリンの演



笑顔で語る代表の小泉圭司さん



作るスタッフ毎に違うキャラクター(上・中)、可愛いロゴ入り宅配用のお弁当箱

やっと全国でも少しずつ広がりがつつある動きだ。これなら、高齢者同士のコミュニケーションが店舗以外でも図れることになる。

遣り甲斐が生まれる様々な工夫

ショーケースの中の惣菜には、それぞれ違ったキャラクターの描かれた札が置かれている。スイカにトマト、人参やメロンなどだ。

「作る人によって味付けにも個性がありますから、誰の作った惣菜がお客様にわかるようにしようと考えて作ったんです。最初は、スタッフのニックネームにしようかと思いましたが、それよりもこのほうが可愛くていいかなと。その人のファンができれば、スタッフの遣り甲斐にもなりますから」

スーパーというサービス業界に身を置いていた小泉さんらしい発想なのかもしれない。スタッフへの遣り甲斐づくりにも様々な工夫が溢れている。

メニュー作りも、リーダーの八重子さんと高齢者スタッフが一緒に考えている。料理はベテランの主婦たちならではの意見がポンポンと飛び出すという。

「鈴木さんとも隣の喫茶店(ぶリズム)で知り合って仲良くなって。それで今度、惣菜店(ぶライス)でスタッフを募集するからって聞いて、私たちでも働けるならって二人で応募したんですよ。仕事も楽しいし、ここがご縁で友達もできたし、本当に感謝です」と語る関根さん。仕事がない日も、鈴木さんと電話で話をしたり、お惣菜を持ち寄って食事をしたりするらしい。

世代に関係なく集まれる場所作りも

高齢者ともなれば、重労働や機敏な動きは期待できないだろう。しかし、その分、人生経験は豊富だ。そんな高齢者の能力をさらに活かしていきたいと小泉さんは考えている。

「今後は、高齢者の手作り品や授産施設の方が作った物も置いていける店や子供の一時預かりもやっていきたいですね。それに、カフェや惣菜店だけでなく、他の店舗の方も一緒になって、高齢者以外の方にも来てもらえるようなコミュニティモールを作ろうと思っています。子供からお年寄りまで、世代に関係なく集える場所づくりです」

現在、ぶライスで働く高齢者の方は有償ボランティアだ。当初は現金の代わりに商品割引券を渡していたが、現在は商品券と現金を半々にしているという。朝は9時から仕込みを始め、1時半までの4時間半働いて現金と商品券で千円分を謝礼として渡している。

「6カ月間家賃は無償でしたが、この4月から発生しますので経営は苦しくなりますね。でも、売上を伸ばして何とか1時間当たり現金で250円以上は払いたいというのが当面の目標なんです」

地産地消で地域の活性化

ぶライスのお弁当は500円だが、近所には競合店があり、お弁当を200円、250円で販売している。当然、お客からは「高い」と言われる。そこで、ひと回りサイズを小さくし350円のお弁当も販売を始めた。常連客も増え、朝晩買いにくる人もいるという。

高齢者が作るおふくろの味。健康を考え旬の野菜を使ったメニューは毎日食べても飽きない。地域の活性化という意味でも地産地消にこだわる小泉さん。

真剣な表情で意見が飛び交う



「将来は歩いて行ける距離に畑を借り、そこで高齢者の方が有機農法の野菜を育て、その野菜を惣菜店で使うという循環サイクルを作りたいですね」と語る小泉さん。

「スタッフの郷土料理もお惣菜としてメニューに加えたいし、管理栄養士の方と病気に合わせたメニューの提供もできればと話しているんです。ぶライスのお惣菜をいつも食べていたら、だんだん健康になってきたよと言われるようになっていきたいんです」

諦めずに生きて欲しいから

様々な目標はあるものの、課題も山積みだ。高齢者の孤立という問題は深刻故に、時間がかったのでは手遅れになってしまおう。だからこそ「5年後を目標」とする小泉さん。

「埼玉県では24市町村が『※地域支え合い事業』というのを行っていますが、コミュニティカフェをやりたいという人は結構いらつしゃいます。そのためにも、元気スタンドがモデルケースにならねばと思っています。今、企業との提携の話も進んでいますので、希望の灯りも見えてきています。年だからと諦めている高齢者の方も多いのですが、諦めずに生きて欲しいというのが僕の願いです。だからこそ、幾つになっても活躍できる場所をどんどん増やして行きたいんです」

経営者として苦労は多いだろうが、終始にこやかな笑顔で話す小泉さん。長年頑張ってきた高齢者の方々のためにも、今後の元気スタンドの活躍に大いに期待したい。

※地域支え合い事業は元気な高齢者等が援助の必要な高齢者等の生活支援を行い、その謝礼を地域商品券や地域通貨として受け取る仕組み。高齢者等の安全確保や介護予防、地域の活性化に繋がっている。

みんなのお惣菜 『元気スタンド・ぶライス』

- 所在地：埼玉県幸手市栄3-2-105
- 電話：0480-48-7372 (しあわせみんなに)
- URL：http://homepage3.nifty.com/gs-purism/
- アクセス：東武日光線杉戸高野台駅東口徒歩10分
- 営業時間：平日・土曜 11時～18時



働く仲間募集中!

写真左から高齢者スタッフの鈴木さん、関根さん、リーダーの八重子さん



- 配達スタッフ 一人暮らし等の方が病気やケガ等で買い物に來れない時にお弁当を届けるお仕事
- サポートスタッフ 予めシフトを決めて出勤その日のメニューを分担して作成するお仕事

その他、リーダースタッフ、フリースタッフ、体験スタッフ、昔遊びイベントスタッフも募集しています。勤務時間、時給等、詳細は元気スタンド・小泉までお問合せ下さい。